

第1号
＝通算51号＝
(7月号)
2017年7月3日

七里が丘子ども若者支援研究所

今を生きよう みんなOK!

最終章

に本研究所は入ります。5月4日実施、いじめ・不登校解決市民サミットを成果に、本研究所と会員団体【子ども若者応援団】は一区切りいたします。

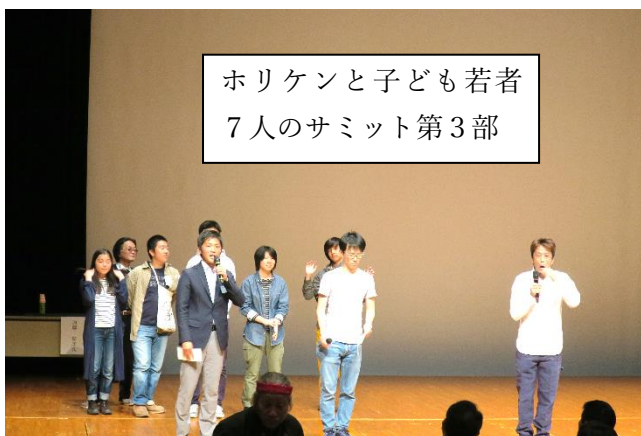


コミュニティをデザインする市民参加型サミット テーマは♡いじめる人に寄り添い、いじめのない地域を♡不登校と呼ばない、子どもの休む権利を でした。「いじめ・不登校は大人の問題」「学校だけに任せず地域で子どもを育てる」を参加者全員で深め理解しました。今後は3つのことを新たに進めます。

第1は通信タイトル「それが社会参加だ!」を「今を生きよう みんなOK!」へ進化です。

第2は1期【子ども若者応援団】終了し、7月から2期へ進みます。会員による自発的主体的活動を応援する進化形となります。

例えば涌井貴暁さん「マジェスティック:当事者支援活動」、竜崎明信さん「ロボコン写真集・実習サイト活動」、新舛秀浩さんの「すぐそこにあること発行・自分ごと講座(新企画)」、高島智子さん「たすき塾:学習支援」、加藤裕介(6月25日横須賀市議会議員当選)・小幡沙央里さん「市議会議員市民活動」、高比良秀一さん「ジャズピアノ演奏」など。なお通信がお手元に届くころ、長谷川ひろみ(書道教授)さんは何とパリで「ジャパン EXPO」出演です、スゴイですね。7月応援団会議で報告をお願いしたいです。



第3は引き続き子ども若者、親御さんのありのままに生きる姿に寄り添い、教育・福祉・医療・心理に偏らず拘らない研究をすすめます。「研究」表現を戒めながら、子ども若者の生き方を苦戦としてではなく、素敵な生き方の一つとして総括していきます。6月中教育事務所管内教頭研究会講演会、鎌倉市ひきこもり行政会議、そして不登校・ひきこもり・発達障害に追い込む社会からの開放へ子ども若者・親御さんへ支援アドバイス、また鎌倉市内で始まるフリースクール Largo に協力をすすめてきました。

なお、7月以降、会費・相談料は不要です。今後、通信送付先を整理いたしますので、送付状をお読みください。なお、会員の活動へは、参加費および寄付支援をその都度お願いいたします。引き続き、ご批判や提言、激励や賛同など頂ければ幸いです。

この4年

をふりかえり、改めて最終章のイメージを広げたいと思います。

- 研究所を開所 2013年5月 2日 会員 28人 通信 50人発送
2017年6月30日 会員123人 通信324人発送
- 応援団会議 2013年5月30日 川辺順子・島根三枝子さんと3人で始めました。
2017年6月25日 17人(安川・川辺悟・新舩・川辺順・新舩雅・高島・小幡・高橋・村松・松田・龍崎・橋本・涌井・金子・村上・滝田・S)

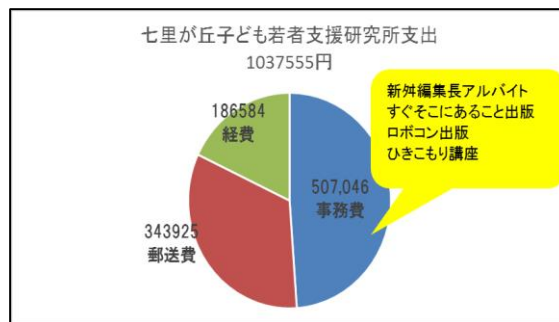
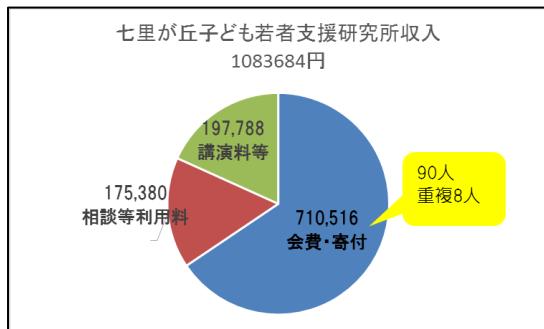
4年間積み上げました講演会

- 2013年9月 8日 岡本圭太さん講演会
「ひきこもりからの生きなおし」
- 2014年2月23日 篠原宏明さん講演会
「いじめない 共に生きる社会へ」
- 8月 9日 新平鎮博さん講演会
「発達障害の研修会」
- 9月23日 交流イベント「2020年みんなで安心して地域で楽しむ子育てを！」
- 12月14日 島根三枝子さん & 山本陽子さん研修会「教育とは何か？を考える」
- 2015年3月15日 高校生男子 & 新舩秀浩さん & 永野亜由美さん講演会
「教育とは何か？Part2子どもから見た」
- 9月23日 長谷川昇さん & 小幡沙央里さん「不登校の解決 第1章」
- 9月27日 高比良秀一さん ジャズピアノライブコンサート
- 11月 8日 加藤彰彦 & 島根 & 高島さん
「第2章子ども若者が生きやすい社会へ」
- 2016年3月26日 いじめ・不登校解決市民サミット準備会議
(横須賀・逗子・鎌倉・県) ※篠原宏明・小林大真さん講演、
- 8月28日 涌井 & 新舩 & 川辺 & 島根さん
「ひきこもり それって自己責任ですか」
※新舩さん「すぐそこにあること」、龍崎さん「ロボコン写真集」発行
- 11月27日 涌井貴暁さん「ひきこもり連続4回講座」 12/11、2017年 1/15、2/26
- 2017年2月12日 いじめ・不登校解決市民サミット実行委員会結成 (55人で運営)
※第2回:2/26、第3回:3/12、第4回:3/26、
第5回:4/9、第6回:4/23
- 2017年5月 4日 いじめ・不登校解決市民サミット 今を生きよう みんなOK! 350人
5月28日 サミット実行委員会解散式 31人



4年間収支のご報告

- 2013年度 収入 1,048,044 円 支出 1,010,314 円
22万円寄付(アンガージュマン、ジェントルハート)
- 2014年度 収入 1,336,215 円 支出 1,091,293 円 20万円寄付(たすき塾、あっぷあっぷ)
- 2015年度 収入 1,663,564 円 支出 1,576,778 円 寄付なし、講演会無料
- 2016年度 収入 1,083,684 円 支出 1,037,555 円 寄付なし、講演会無料、冊子発行



5月4日サミット収支決算



涌井貴暁旅日記

それぞれの風 3000 キロの旅へ2

2 日目は広島県の江田島に着いた。前回にも書いたが、江田島は私の人生を大きく変えてくれた場所だ。二十歳ぐらいの私。当時海上自衛官だった。当時の私はハッキリ言って不良自衛官、ただのダメ人間だった。髪を茶色く染め、いつも遅刻ばかり、反省はしない、戦争が起きたらすぐに自衛官を辞める気でいた。

そんな私がある時、横須賀から江田島の第一術科学校(旧海軍兵学校)へ転属の命を受けた。着任間もなく、学校の中にある教育参考館と言う所へ連れていかれた。そこには過去の戦争の資料などが展示されていて、特攻隊の遺書などもある。その時の私の気持ちは「やれやれ、気合だの、人生に悔いはない、などの遺書など見るのが怠いんだよ。」と



いて、嫌々ついて行ったのだった。しかしそこにあった遺書は、まるで自分が想像していた遺書とは大きくかけ離れていた。最初の文章はまるでただの手紙のようなことが書いてあった。筆で書かれていて、どれも達筆だったが、そこには「この間実家に戻った時、彼女が豚のように太っていた(笑)」と、筆で書かれている。(笑)！なんか俺たちと何にも変わらないじゃないか！？写真を見ると、18歳と書かれていて、表情には微塵も暗さを感じさせない、むしろ希望に満ち溢れた顔、目をしていて。そしてだんだん文章が遺書のように

いき、最後にこう書かれていた。「私は未来の日本を支える若者が、人生を謳歌し、自由に生きられる時代が作れるなら、死んでも構わない。」そう書かれていた。私はハッとしました。未来の若者、それは今の私だ。

今の私は人生を謳歌しているだろうか？いつもサボることばかり考え、何も目標も持たず、ただ怠惰に毎日を過ごしている私。よく「特攻隊は無駄死にだ！」と世間では言うが、無

駄死にさせているのは今の私の生き方が彼らの死を無駄死にさせているのではないかと悟った。私はそこから動けなくなっていた。気づいたら涙を流し、嗚咽を漏らしていた。周りを見ると何百という遺書と写真がある。みんな終戦の数か月前に特攻で戦死している。皆、希望に満ち溢れた目をしている。しかし、そんな彼らも、もうこの世にはいないのだ。分隊付きから「涌井士長！時間だ、外に整列！」と言われ、私は肩を丸め泣きながら外に出たのを覚えている。しかし今、戦死した特攻隊の彼らから「今、君は人生を謳歌しているか」と尋ねられたら「はい、今私は人生を謳歌しています。」と胸を張って答えられる。

コラム風 ○21世紀かながわ円卓会議「私たちはいかにして分断を超えられるのか」井手英策さん(慶応大学教授)「人間の顔をした財政を取りもどす～頼りあえる社会を目指して～」の講演会に参加した。昨秋に次いで2回目。成長論にすぎりつく自己責任の破たん(貯蓄ができず貧困へ)。困っている人が助けられる“屈辱”を超える All for All の分配革命を説く井手さんの存在感、革命家を実感。消費税を上げ、財政再建をすすめながら福祉(老後と障がいの不安)・教育(高い塾代・学費不安)・医療を無償化で、貯蓄の必要もなく食べるだけの収入で尊厳ある生活ができると。一度お聞きください。
○少子高齢化社会の不安は、人類史(世界的)が初めて経験する人口減少が背景にある。江戸時代以降爆発的に増加する人口、飢饉や戦争があっても人口は減らなかった。女性が子どもを産まなくなったのではなく「30歳以下の若い女性におこっている」現象。収入や子育て環境もあるが晩婚化と結婚・家族形態(夫婦家族38.5、配偶者いない子と同居家族26.1)が要因と平川克美さんは『移行期的混乱』で言及。婚外子(日本は2.1、スウェーデン54.7)の承認と具体的改善を進めつつも、「国家の文化そのものの再構築、少子化対策は時間をかけながら行う社会変革」と位置づける。ご一読を。

○横浜市 NPO 法人リロード武藤啓司さんのお招きで、新舛秀浩さんが講演した。参加した約20名の親は不登校・発達障害・ひきこもりの子どもと暮らす、苦闘する日々を切々と語った。「親子のすれ違い」「親の心配に聴く耳を持たない子」のエピソードが語られ耳に不快な響きとなる。親の「子を思い一生懸命やっている」承認欲求と受け止めたいが、世間体や差別的視線、子への不信を感じる。「社会性がない」「親の気持ちが分からない」「いつまで親を苦しめる？親が死んだらどうする」と子を追い込む。ひきこもり当事者新舛さんの“生きた言葉”は何処に？と心配で口をはさんだ。国家社会が要求する自己責任を、親が代わって執行している姿と受け止めるのは僕だけだろうか・・・。

○当事者やその親の交流は大事だ。しかし、もっと大事なのは街場で多様な人たちが在るがままに、不登校・ひきこもり・発達障害が語れること。それが「子ども若者応援団」である。多様な人たちが集える場だ。逗子や鎌倉にもこの動きを実感、三浦半島市民サミット実現に感謝である。横須賀市長吉田雄人さん、鎌倉市長松尾崇さんはじめ、行政及び市民団体の皆様に改めて感謝いたします。地域で育つ子ども若者！！ご支援ください。

7月予定 4日(火)・6日(木)10時 Largo、8日(土)新舛さん講演会：2時逗子市福社会館、10日(月)県教委研究所での相談事業は基本中止しています。ご了承ください。



16日(日)午後2時 応援団会議—事業計画を立てていきます。進行をお願いします。

住所：鎌倉市七里ヶ浜東2-31-12 連絡先：090-7212-4055

メール：gq5656r9@happytown.ocn.ne.jp

発行編集責任者：滝田衛